



Cisco CallManager Release 5.0(1) アップグレード手順

Cisco CallManager のこのリリースのインストールの枠組みは、以前のリリースの Cisco CallManager と異なります。Cisco CallManager 5.0 にアップグレードする前に、すべてのインストール手順をよく確認してください。本書では、Cisco CallManager 4.x リリースから Cisco CallManager 5.0 へのアップグレードに関する情報を示します。また、Cisco CallManager 5.0 にアップグレードした後でソフトウェア パッチおよびアップグレード ソフトウェアをインストールする方法についても説明します。

目次

本書の内容は、次のとおりです。

- [インストールの概要](#)
- [関連資料](#)
- [重要な考慮事項](#)
- [Cisco CallManager のインストールに関する FAQ 情報](#)
- [ブラウザ要件](#)
- [ハードウェアの設定](#)
- [Cisco CallManager アップグレード手順](#)
- [最初の Cisco CallManager ノードのアップグレード](#)
- [クラスタの後続ノードのアップグレード](#)
- [アップグレード後の作業の実行](#)
- [Cisco CallManager 5.0 にアップグレードした後のアップグレードソフトウェアのインストール](#)
- [Disaster Recovery ディスクの使用](#)
- [ログ ファイルの検査](#)
- [技術情報の入手方法](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要](#)
- [テクニカル サポート](#)

インストールの概要

Cisco CallManager 5.0(1) は、以前のリリースと異なるインストールの枠組みを使用します。インストール処理で、基本的なインストール、Cisco CallManager 4.x から Cisco CallManager 5.0 へのアップグレード、インストール中の新しいサービス リリースへのアップグレードを実行できます。

さまざまなインストールのタイプについては、表 1 を参照してください。

表 1 インストール オプション

インストールのタイプ	説明
Basic Install	このオプションは、基本的な Cisco CallManager 5.0(1) インストールを表します。インストールディスクからソフトウェアをインストールし、インポート データは使用しません。
Upgrade During Install	このオプションを使用すると、インストールディスクに含まれているソフトウェア バージョンを最新のサービス リリースでアップグレードできます。また、Upgrade During Install の後で Windows Upgrade を選択すると、インストール処理中に両方が実行されます。
Windows Upgrade	このオプションを使用すると、Data Migration Assistant (DMA) ツールで生成したファイルを使用して、Cisco CallManager 4.x システムのデータベース情報をインポートできます。



(注) 本書では、Windows Upgrade を実行する手順について説明します。基本インストールの手順については、『*Installing Cisco CallManager Release 5.0(1) インストレーションガイド*』を参照してください。

関連資料

Cisco CallManager をインストールするときは、事前に次の資料を参照しておくことを強く推奨します。

- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco CallManager システムガイド』

『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』では、Cisco CallManager による Voice over IP ネットワークの設定、保守、管理を行う際の作業をステップごとに説明しています。

『Cisco CallManager システムガイド』では、Cisco CallManager システムの概要およびそのコンポーネント、設定用チェックリスト、および『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の手順に関連するリンクについて記述しています。
- Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*

この資料では、Cisco Music On Hold や Cisco CallManager エクステンション モビリティなど、Cisco CallManager の機能およびサービスを設定する方法について説明しています。
- 『Cisco CallManager Serviceability システムガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』

この資料では、Cisco CallManager の Serviceability プログラム、およびリモート Serviceability ツールについて説明しています。また、アラーム、トレース、およびその他のレポート機能の設定については、ステップごとに説明しています。
- Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Administration Guide*

この資料では、バックアップ設定の構成、Cisco CallManager データのバックアップ、およびデータの復元方法について説明しています。
- Cisco IP Telephony Data Migration Assistant 2.0 User Guide*

この資料では、以前のバージョンの Cisco CallManager から Cisco CallManager 5.0 にデータを移行する手順について説明しています。
- Cisco IP Telephony Platform Administration Guide*

この資料では、プラットフォームで使用できるユーティリティへのアクセス方法と使用方法を説明しています。新しいロケールのインストール方法についても説明しています。
- Cisco CallManager セキュリティガイド*

この資料では、Cisco CallManager、Cisco IP Phone、SRST リファレンス、および Cisco MGCP ゲートウェイの設定方法および認証と暗号化に関するトラブルシューティングの方法を説明しています。

表 2 に、ソフトウェアおよびその他の資料への URL を示します。

表 2 関連資料の入手先 URL

関連情報およびソフトウェア	URL
Cisco MCS のデータシート	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/index.html
ソフトウェア専用のサーバ (IBM、HP、Compaq、Aquarius)	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/prod_brochure_list.html
Cisco CallManager Compatibility Matrix	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/cmcomp.htm
Cisco CallManager の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm
Cisco CallManager セキュリティガイド	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/ae/index.htm
Cisco CallManager のバックアップと復元の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm

表 2 関連資料の入手先 URL (続き)

関連情報およびソフトウェア	URL
Cisco CallManager サービス リリース	http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml
Cisco IP テレフォニー アプリケーション関連資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/index.htm

重要な考慮事項

Cisco CallManager のインストールは、次の要件および推奨事項を考慮してから実行してください。

- Cisco CallManager 5.0 を既存のサーバにインストールするときは、ハードディスク ドライブがフォーマットされ、そのドライブの既存データが上書きされます。
- アップグレード処理中は、すべてのセキュア フォンがダウンすることに注意してください。
- Cisco CallManager ソフトウェアは、最初のノード (パブリッシャ サーバ) にインストールしてから、後続ノードにインストールします。後続ノードにインストールする前に、最初のノードで後続ノードを設定する必要があります。
- クラスタ内のすべてのサーバに対して、同一のセキュリティ パスワードを入力します。
- 後続ノード (サブスライバノード) をインストールする前に、最初のノード (パブリッシャノード) で設定する必要があります。
- コール処理の中断による影響を回避するため、Cisco CallManager ソフトウェアは、オフピーク時またはメンテナンス ウィンドウが表示されているときにインストールします。
- 静的 IP アドレッシングを使用してサーバを構成して、サーバが確実に固定 IP アドレスを取得し、Cisco IP Phone のネットワーク接続時にそれらの IP Phone がアプリケーションに登録されるようにします。
- Cisco CallManager をネットワーク経由でバックアップするには、SFTP サーバにアクセスする必要があります。
- インストール中は、どのような設定作業も実行しないでください。
- クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager のインストールが完了するまで、シスコで検証されたどのようなアプリケーションもインストールしないでください。
- カスタマー背景イメージ、カスタム TFTP ファイル、カスタム MoH ファイル、およびカスタマー呼び出し音は、アップグレード処理では移行されません。アップグレードが完了した後、これらのファイルを再インストールする必要があります。詳細については、P.36 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。
- 呼び出し音や背景イメージなど、エンドユーザの設定は、アップグレード処理では移行されません。アップグレードが完了した後、エンドユーザがこれらの項目を再設定する必要があります。
- インストールを開始する前に、次の説明を十分注意して読んでください。

Cisco CallManager のインストールに関する FAQ 情報

この項では、頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答を紹介しします。Cisco CallManager のインストールを実行する前に、この項の内容を十分に確認してください。

Cisco CallManager Windows Upgrade には、どのくらいの時間を要しますか

インストール前作業およびインストール後作業を含まないアップグレード処理全体で、サーバごとに 60 ～ 100 分必要です。これはサーバの種類、および Cisco CallManager サーバで設定したデータベース エントリの数に依存します。データベース サイズをさまざまに設定した 3 種類のサーバでの Windows Upgrade のパフォーマンス計測結果を次に示します。

MCS-7845H-3000 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

表 3 に、次のように設定された MCS-7845H-3000 サーバのアップグレードパフォーマンス測定結果を示します。

- CPU : 2、3.066 GHz
- メモリ : 4 GB
- ハードディスク ドライブ : 4、72 GB、RAID 1+0

表 3 MCS-7845H-3000 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

パフォーマンス測定結果	500 のデータベース エントリがある パブリッシャ	2500 のデータベース エントリがある パブリッシャ	10,000 のデータベース エントリがある パブリッシャ	2500 のデータベース エントリがある サブスクライバ
DVD からのシステム ブート	1.5 分	1.5 分	1.5 分	1.5 分
DVD チェックサム	8 分	8 分	8 分	8 分
RIOS/RAID 設定	0.5 分	0.5 分	0.5 分	0.5 分
リブート	2 分	2 分	2 分	2 分
DVD チェックサム	8 分	8 分	8 分	8 分
インストール開始 (Skip オプション)	21 分	21 分	21 分	21 分
リブート	2 分	2 分	2 分	2 分
インストールと設定	42 分	43.5 分	50 分	23 分
サービスの開始	5 分	5 分	5 分	5 分
合計	90 分	91.5 分	98 分	71 分

MCS-7835-H1 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

表 4 に、次のように設定された MCS-7835-H1 サーバのアップグレード パフォーマンス測定結果を示します。

- CPU : 1、3.4 GHz
- メモリ : 2 GB
- ハードディスク ドライブ : 1、72 GB

表 4 MCS-7835-H1 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

パフォーマンス測定結果	500 のデータベース エントリがあるパブリッシャ	2500 のデータベース エントリがあるパブリッシャ	10,000 のデータベース エントリがあるパブリッシャ	2500 のデータベース エントリがあるサブスクライバ
DVD からのシステム ブート	1.5 分	1.5 分	1.5 分	1.5 分
DVD チェックサム	6 分	6 分	6 分	6 分
RIOS/RAID 設定	0.5 分	0.5 分	0.5 分	0.5 分
リポート	2 分	2 分	2 分	2 分
DVD チェックサム	6 分	6 分	6 分	6 分
インストール開始 (Skip オプション)	13 分	13 分	13 分	13 分
リポート	2 分	2 分	2 分	2 分
インストールと設定	33 分	35 分	40 分	17 分
サービスの開始	5 分	5 分	5 分	5 分
合計	69 分	71 分	76 分	53 分

MCS-7825-H1 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

表 5 に、次のように設定された MCS-7825-H1 サーバのアップグレード パフォーマンス測定結果を示します。

- CPU : 1、3.4 GHz
- メモリ : 2 GB
- ハードディスク ドライブ : 1、72 GB

表 5 MCS-7825-H1 の一般的な Windows Upgrade パフォーマンス測定結果

パフォーマンス測定結果	500 のデータベース エントリがあるパブリッシャ	1000 のデータベース エントリがあるパブリッシャ	1000 のデータベース エントリがあるサブスクライバ
DVD からのシステム ブート	1.5 分	1.5 分	1.5 分
DVD チェックサム	10 分	10 分	10 分
RIOS/RAID 設定	0.5 分	0.5 分	0.5 分
リポート	2 分	2 分	2 分
DVD チェックサム	10 分	10 分	10 分
インストール開始 (Skip オプション)	21.5 分	21.5 分	21.5 分
リポート	2 分	2 分	2 分
インストールと設定	40 分	42 分	20 分
サービスの開始	5 分	5 分	4 分
合計	92.5 分	94.5 分	71.5 分

どのパスワードを指定する必要がありますか

Cisco CallManager のインストール中に、次のユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

- Administrator アカウント

Administrator ユーザ名とパスワードを使用して、次の領域にログインします。

- Platform Administration
- Disaster Recovery System
- Command Line Interface

Administrator ログインは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。コマンドライン インターフェイスを使用して、Administrator パスワードの変更および新しい Administrator アカウントの追加ができます。詳細については『Cisco IP Telephony Platform Administration Guide』を参照してください。

- Application User パスワード

次のデフォルト アプリケーション ユーザ名に対して、Application User パスワードを使用します。

- CCMAAdministrator
- CCMSysUser
- WDSysUser
- CCMQRTSysUser
- IPMASysUser
- WDSecureSysUser
- CCMQRTSecureSysUser
- IPMASecureSysUser

Cisco CallManager Administration の各アプリケーションのアプリケーション ユーザ パスワードは、**User Management>Application User** で変更できます。詳細については『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- Database Access Security パスワード

システムは、このパスワードを使用して、ノード間の通信を認証します。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

Database Access Security パスワードは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。

- End User Password および PIN

システムはこのパスワードと PIN を使用して、Windows ベースの Cisco CallManager で設定されたすべてのエンド ユーザのパスワードと PIN をリセットします。



(注) システムをアップグレードした後、すべてのエンド ユーザにこの新しいパスワードと PIN を通知し、各ユーザがパスワードと PIN を変更できるようにする必要があります。

シスコがインストールをサポートしているのは、どのようなサーバですか

ここでは、Cisco CallManager 5.0(1) をサポートするサーバについて説明します。

最小要件

Cisco CallManager 5.0 を実行するには、サーバが次の最小要件を満たしている必要があります。

- 2 GHz のプロセッサ
- 72 GB のハードディスク
- 2 GB の RAM メモリ



(注)

新しいサーバを HP や IBM から購入する場合は、シスコが特にサポートしているモデルを購入する必要があります。プロセッサ速度、ハードディスク容量、およびメモリの最小要件を満たしているだけのサーバでは、Cisco CallManager 5.0 をサポートしないことがあります。

変更なしで Cisco CallManager をサポートするサーバ

次のサーバは、変更なしで、Cisco CallManager 5.0(1) をサポートします。

- MCS-7815I-I1-IPC3
- MCS-7825-I1-IPC1
- MCS-7825-H1-IPC1
- MCS-7835-I1-IPC1
- MCS-7835-H1-IPC1
- MCS-7845-I1-IPC1
- MCS-7845-H1-IPC1
- MCS-7845H-2.4-EVV1
- MCS-7845H-3.0-IPC1

追加メモリが必要なサーバ

次のサーバが Cisco CallManager 5.0(1) をサポートするには、追加メモリが必要です。

- MCS-7815I-3000
- MCS-7815I-I1-IPC1
- MCS-7825I-3000
- MCS-7825I-3.0-IPC1

ハードディスク ドライブのアップグレードが必要なサーバ

次のサーバが Cisco CallManager 5.0 をサポートするには、ハードディスク ドライブを 72 GB 以上にアップグレードする必要があります、追加のメモリも必要です。

- MCS-7815I-2000
- MCS-7825H-2266
- MCS-7825H-3000
- MCS-7825H-2.2-EVV1

- MCS-7835H-2.4-EVV1
- MCS-7835I-2.4-EVV1
- MCS-7835H-3.0-IPC1

Cisco CallManager のほかに別のソフトウェアをサーバにインストールできますか

Cisco CallManager 5.0 では、Platform Administration の Software Upgrades メニュー オプションを使用して、すべてのソフトウェア インストールおよびアップグレードを行う必要があります。システムがアップロードし、処理できるソフトウェアは、シスコが承認したソフトウェアだけです。Cisco CallManager の以前のバージョンで使用していたサードパーティまたは Windows ベースのソフトウェア アプリケーションを Cisco CallManager 5.0 と共にインストールしたり使用したりすることはできません。

ブラウザ要件

Cisco CallManager Administration、Cisco CallManager Serviceability、および Cisco IPT Administration には、次のブラウザでアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以降
- Netscape Navigator バージョン 7.1 以降



(注) Mozilla Firefox など、その他のブラウザではテストをしていないため、サポート対象外です。

ハードウェアの設定

ソフトウェア インストールの一部として、システム インストーラは、システム BIOS および RAID の設定を新しいオペレーティング システムおよび Cisco CallManager アプリケーション用に設定します。インストール中に設定される BIOS 設定については表 6 を、RAID 設定については表 7 を参照してください。

表 6 HP および IBM サーバの BIOS コンフィギュレーション設定

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD, C:, Floppy	Boot order : CD, C:, Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 7 RAID 設定

MCS 7825 サーバ (HP および IBM)	MCS 7835 サーバ (HP および IBM)	MCS 7845 サーバ (HP および IBM)
RAID は適用されません	Logical drives : 1	Logical drives : 2
RAID は適用されません	RAID type : 1(1+0)	RAID type : 1(1+0)
 (注) HP 7825H1 および IBM 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1(1+0)、論理ドライブが 1 です。		



(注) インストール中にハードウェア設定処理が失敗した場合、IBM サーバと HP サーバの両方にあるブート時ユーティリティを使用して、表 6 および表 7 のように手動で RAID と BIOS の設定を構成します。

Cisco CallManager アップグレード手順

パブリッシャ データベースがある Cisco CallManager サーバが最初のノードとして設定され、サブスクリバ データベースがある Cisco CallManager サーバが後続ノードとして設定されていることを確認します。ここでは、最初のノードと後続ノードをアップグレードする手順を説明します。アップグレードを実行する前に、次の項をよく確認してください。

- アップグレード前の作業の実行 (P. 11)
- インストール用の情報の収集 (P. 13)
- Standalone Configuration Wizard の使用 (P. 18)
- 最初の Cisco CallManager ノードのアップグレード (P. 20)
- インストール ウィザード内のナビゲーション (P. 20)
- インストール オプションの選択 (P. 20)
- 最初のノードでの新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール (P. 21)
- クラスタの後続ノードのアップグレード (P. 29)
- アップグレード後の作業の実行 (P. 36)

アップグレード前の作業の実行

アップグレードを開始する前に、次の作業を実行します。

	アップグレード前の作業	注意事項
ステップ 1	クラスタの Cisco CallManager ノードをアップグレードするために必要なシステム要件を満たしていることを確認します。	P.5 の「Cisco CallManager のインストールに関する FAQ 情報」を参照してください。
ステップ 2	パブリッシャ サーバで、推奨されているバックアップ手順を実行します。Cisco CallManager サーバに関連付けられているすべてのデータベースをバックアップします。	『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。
ステップ 3	サードパーティのアプリケーションを使用して Call Detail Record (CDR) にアクセスしている場合は、サードパーティ ベンダーのマニュアルで推奨されている手順で、CDR データのバックアップを実行します。  (注) Cisco CallManager 5.0(1) は、CDR データにアクセスするサードパーティのツールをサポートしません。CDR データにアクセスするには、Cisco CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールを使用する必要があります。	CAR の詳細については、『CDR Analysis and Reporting Administration Guide』を参照してください。
ステップ 4	CDR レコードを Cisco CallManager 5.0 に移行しない場合は、DMA を実行する前に CDR レコードを消去することを推奨します。	CDR レコードを消去すると、移行プロセスが加速し、DMA tar ファイルのサイズが小さくなります。

アップグレード前の作業	注意事項
<p>ステップ 5 Cisco IP Telephony Data Migration Assistant (DMA) を実行して、現在の Cisco CallManager パブリッシャサーバのデータをエクスポートします。</p> <p>設定ファイルとエクスポートされたデータ ファイルが、次のどれかの場所にあることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードディスク ドライブ (DMABackupInfo.inf のみ) フロッピーディスク ドライブ (DMABackupInfo.inf のみ) テープ ドライブ リモート ドライブ 	<p>DMA は、2 つのファイルを生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> データベースとディレクトリ情報が含まれる テープ アーカイブ (tar) ファイル。ファイル名の形式は、DMABackup<M>-<D>-<Y>#<H>-<mm>.tar で、M は月、D は日、Y は年、H は 24 時間形式の時間、mm は分を示します。 Cisco CallManager の設定データが含まれている バックアップ情報ファイル。ファイル名は DMABackupInfo.inf です。D:\DMA フォルダに tar ファイルの一部として保存されます。 <p> (注) 設定データのファイル名は変更しないでください。正確なファイル名と形式のファイル名が見つからない場合、アップグレードが失敗します。</p> <p>データの移行の詳細については、『Cisco IP Telephony Data Migration Assistant Guide』を参照してください。DMA 出力設定ファイルおよび tar ファイルの場所に基づいて、インストール オプションを選択します。</p>
<p>ステップ 6 アップグレードの前に、最初のノードと後続ノードでプラットフォームと Cisco CallManager を設定するために必要な情報を取得します。</p>	<p>P.13 の「インストール用の情報の収集」を参照してください。</p>
<p>ステップ 7 インストール ウィザード内のナビゲーション オプションについて、あらかじめ確認します。</p>	<p>P.18 の「Standalone Configuration Wizard 内のナビゲーション」および P.20 の「インストール ウィザード内のナビゲーション」を参照してください。</p>

インストール用の情報の収集

表 8 を使用して、Cisco CallManager サーバに関する情報を記録します。クラスタにインストールしようとする Cisco CallManager サーバごとに、これらの情報を用意します。すべての情報を取得する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連のある情報だけを収集します。DMABackupInfo.inf ファイルを使用してシステムを設定する場合でも、この表をコピーして、各サーバのエントリを個別の表に記録することを推奨します。



(注)

一部のフィールドは省略可能で、設定に関係しないことがあります。たとえば、SMTP ホストの設定は省略できます。



注意

一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するにはソフトウェアの再インストールが必要になります。正しい値を入力するように注意してください。

表の最後の列は、インストール後にそのフィールドを変更できるかどうか、変更できる場合は、プラットフォーム管理とコマンドライン インターフェイス (CLI) のどちらで変更できるかを示します。

表 8 設定データ

設定データ	ユーザ入力欄	インストール後にエントリを変更できるか
Administrator Password		はい CLI > set password admin
Application User Password		はい CLI > set password
Country		はい CLI > set web-security
DHCP		はい CLI > set network dhcp
DNS Primary		はい CLI > set network dns
DNS Secondary		はい CLI > set network dns
Domain		はい CLI > set network domain
Domain Name Service DNS Enable		いいえ
Gateway Address		はい Use Platform Administration > Settings > IP または CLI > set network gateway

表 8 設定データ (続き)

設定データ	ユーザ入力欄	インストール後にエントリを変更できるか
Host Name		いいえ
IP Address		はい Use Platform Administration >Settings>IP または CLI > set network IP
IP Mask		はい Use Platform Administration >Settings>IP または CLI > set IP
Location		はい CLI > set web-security
Master Administrator ID		いいえ
NTP Server IP Address		はい Use Platform Administration >Settings>NTP Servers
 (注) 最大 5 つの NTP サーバを入力できます。		
Organization		はい CLI > set web-security
Security Password		はい CLI > set password security
SMTP Location		はい CLI > set smtp
State		はい CLI > set web-security
Time Zone		はい CLI > set timezone
Unit		はい CLI > set web-security
End-User Password		はい 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「End User Configuration」を参照してください。
End-User PIN		はい 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「End User Configuration」を参照してください。

各インストールフィールドの詳細については、表 9 を参照してください。

表 9 インストールフィールドの定義

フィールド	説明	使用方法
Administrator ID	このフィールドは、このアカウントに割り当てる名前を指定します。	<p>名前は一意にする必要があります。小文字、英数字、ハイフン、下線を使用できます。先頭は小文字の英数字にする必要があります。</p> <p>この必須フィールドは、プラットフォームの CLI または Cisco IPT Platform Administration にログインするときに使用するために、記録する必要があります。</p> <p> (注) このフィールドは、インストール後に変更できません。</p>
Administrator Password	このフィールドは、プラットフォームの CLI および Cisco IPT Platform Administration にログインするために使用するパスワードを指定します。	<p>パスワードは 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。</p> <p>この必須フィールドは、Cisco CallManager にログインするときに使用するために、記録する必要があります。</p>
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol。	<p>DHCP を使用して、サーバのネットワーク設定を自動的に設定する場合は、Yes を選択します。</p> <p>No を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイを入力する必要があります。</p>
DNS Enabled	<p>DNS サーバは、ホスト名を IP アドレスに、または IP アドレスをホスト名に解決するデバイスを表します。</p> <p> (注) インストールが完了した後で、DNS 設定を変更することはできません。DNS 設定を変更するには、Cisco CallManager を再インストールする必要があります。</p>	<p>DNS サーバがない場合は、No を入力します。DNS が無効な場合は、Cisco IP Telephony ネットワークのすべてのネットワーク デバイスの IP アドレス（ホスト名ではなく）だけを入力する必要があります。</p> <p>DNS サーバがある場合は、Yes を入力して DNS を有効にすることを推奨します。DNS を無効にすると、一部を除き、システムでドメイン名の解決ができなくなります。</p>
DNS Primary	Cisco CallManager は、ホスト名を解決しようとするとき、最初にこの DNS サーバに接続します。	<p>プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。</p> <p>DNS を Yes に設定した場合、このフィールドは必須です。</p>
DNS Secondary	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、Cisco CallManager は、セカンダリ DNS サーバに接続しようとします。	<p>このオプションフィールドに、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。</p>

表9 インストール フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
Domain	このフィールドは、このマシンがあるドメインの名前を表します。	DNS を Yes に設定した場合、このフィールドは必須です。
First Cisco CallManager Node	最初の Cisco CallManager ノードには、データベースが含まれています。 後続ノードは、最初のノードに接続してデータベースの内容にアクセスします。 また、最初のノードは外部 NTP サーバと同期し、他のノードに時間を提供します。	クラスタで最初の Cisco CallManager ノードを設定するときは、 Yes を選択します。 後続ノードを設定するときは、他のフィールドについて表9を参照してください。
Gateway Address	ゲートウェイは、他のネットワークへの入り口として機能するネットワーク ポイントを表します。発信パケットはゲートウェイに送信され、最終的な宛先に転送されます。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式でゲートウェイの IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドは空白にせず、255.255.255.255 を設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、通信できるデバイスは、同じサブネットのデバイスに限られます。
Hostname	ホスト名は、ホストを識別する IP アドレスに割り当てられている別名を表します。	ネットワークで一意的なホスト名を入力します。 ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。 DHCP を No に設定した場合、このフィールドは必須です。
IP Address	このフィールドで、このマシンの IP アドレスを指定します。このネットワークでサーバを一意的に識別します。このネットワークのその他のマシンで、この IP アドレスを使用してはいけません。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 DHCP を No に設定した場合、このフィールドは必須です。
IP Mask	このフィールドで、このマシンの IP サブネット マスクを指定します。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスとホストアドレスを定義します。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP マスクを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 有効なマスクは、左側に「1」ビットが連続し、右に「0」ビットが連続します。 たとえば、255.255.240.0 は有効なマスクです (11111111.11111111.11110000.00000000)。 255.255.240.240 は無効なマスクです (11111111.11111111.11110000.11110000)。

表9 インストール フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
NTP Server	このフィールドで、サーバが時間の同期をとる NTP サーバを指定します。	<p>NTP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>システムを NTP クライアントとして有効にする場合は、少なくとも 1 つの NTP サーバのホスト名または IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p> (注) 後で、別の NTP サーバを追加したり、NTP サーバリストを変更したりできます。</p>
Security Password	<p>クラスタの Cisco CallManager サーバは、セキュリティ パスワードを使用して相互に通信します。</p> <p>クラスタの各後続ノードに、同じセキュリティ パスワードを入力するように要求されます。</p>	<p>セキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>確認パスワード フィールドに、同じパスワードを入力します。</p> <p>パスワードには、6 文字以上の英数字を使用する必要があります。ハイフンと下線は使用できませんが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p> 注意 クラスタ内のすべてのノードに対して、同一のパスワードを入力する必要があります。</p>
Set Hardware Clock	<p>このフィールドで、マシンの日付と現地時間を指定します。</p> <p> (注) ハードウェア クロックを手動で設定する場合、ノードは時間同期に外部の NTP サーバを使用しません。</p>	<p>選択した時間帯の日付と現地時間を設定する場合は、Yes を選択します。</p> <p>時間は、24 時間形式で入力します。</p> <p> (注) 外部 NTP サーバを設定する場合、ハードウェア クロックは自動的に設定されます。</p>
SMTP	このフィールドで、電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。	<p>SMTP サーバのホスト名またはドット付き IP アドレスを入力します。ホストには、英数字、ハイフン、ピリオドを使用できます。ホスト名の先頭は、英数字にする必要があります。</p> <p>Electronic Notification を使用する場合は、このフィールドに入力する必要があります。使用しない場合は、空白のままかまいません。</p>
Time zone	このフィールドで、現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットを指定します。	<p>時間帯を変更する場合は、Yes を選択します。</p> <p>マシンがある場所に最も近い時間帯を選択します。</p>

Standalone Configuration Wizard の使用

サーバをインストールするには、新しいオペレーティングシステムと Cisco CallManager アプリケーションをインストールする必要があります。必要なすべてのパラメータを XML 形式で正しく記述した設定ファイルがあると、サーバのインストールが速くできます。Standalone Configuration Wizard を使用して、設定ファイルを作成し、フロッピー ディスクまたは USB メモリ キーに保管します。インストールを開始するとき、またはインストール処理中にプロンプトが表示されたときに、USB メモリ キーまたはフロッピー ディスクを挿入します。



(注) Standalone Configuration Wizard は、Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムだけで使用できます。

Standalone Configuration Wizard 内のナビゲーション

Standalone Configuration Wizard 内のナビゲーション方法については、表 10 を参照してください。



(注) すべてのフィールドが大文字と小文字を区別します。

表 10 Standalone Configuration Wizard 内のナビゲーション

実行する処理	押すキー
次のフィールドに移動。	Tab
	<p>(注) ドロップダウン メニューのあるフィールドで Tab キーを押すと、メニュー オプションが開きます。</p>
前のフィールドに移動。	Shift キーを押した状態で Tab キーを押して、前のフィールドに移動します。
	直前のフィールドの入力がさらに前のフィールドに依存する場合、 Shift キーを押した状態で Tab キーを押すと、直前のフィールドを通過することがあります。
ドロップダウン メニューのオプションを選択。	Tab キーを押して、適切なオプションを選択します。
ウィンドウを終了。	Enter
ウィンドウのヘルプ情報を表示。	?
ヘルプ ウィンドウを閉じる。	Tab
ヘルプ ポップアップ ウィンドウまたはドロップダウン ボックスを上または下にスクロール。 (ヘルプ ウィンドウまたはドロップダウンボックスのオプションに表示されていないテキストがある場合、左の余白に「#」が表示されます)	↑ キーまたは ↓ キーを使用します。

表 10 Standalone Configuration Wizard 内のナビゲーション (続き)

実行する処理	押すキー
Standalone Configuration Wizard の前のページに移動。	ウィンドウの下部にカーソルがある場合は、 P キーを押します。 Shift キーを押した状態で Tab キーを押して、前のウィンドウの上部に移動します。

Standalone Configuration Wizard の実行

次の手順で、Standalone Configuration Wizard を設定し、実行します。

手順

- ステップ 1** Linux オペレーティング システムを実行しているマシンに Standalone Configuration Wizard をコピーします。
- ステップ 2** WizardConfigurator を実行します。
- ステップ 3** Cisco CallManager を製品として追加するには、**Add** を選択します。
- ステップ 4** 出力ファイル名を入力します。デフォルトの出力ファイル名は、platformConfig.xml です。



(注) platformConfig.xml 以外のファイル名を入力した場合は、インストールを開始する前に、ファイル名を platformConfig.xml に変更してください。インストールプログラムは、ファイル名が DMABackupInfo.inf または platformConfig.xml のファイルを検索します。

- ステップ 5** 表 9 の記述に従って、時間、ネットワーク、およびアカウントの情報を入力します。

Summary ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** 設定情報を確認します。設定を変更するには **P** キーを押します。設定を開始するには **Enter** キーを押します。

Welcome to the Cisco CallManager Installation Wizard が表示されます。
- ステップ 7** 表 9 の記述に従って、Cisco CallManager 設定情報を入力します。このウィンドウの入力が終了したら、**Enter** キーを押します。
- ステップ 8** Cisco CallManager Installation Wizard summary が表示されます。設定情報を確認します。設定を変更するには **P** キーを押します。設定を開始するには **Enter** キーを押します。
- ステップ 9** 出力ファイルをフロッピー ディスクまたは USB メモリ キーにコピーします。

最初の Cisco CallManager ノードのアップグレード

パブリッシャ サーバをアップグレードし、データを移行するには、次の作業を実行する必要があります。

1. アップグレード前の作業がすべて完了したことを確認する。P.11 の「アップグレード前の作業の実行」を参照してください。
2. インストール ウィザード内のナビゲーションについて、あらかじめ確認する。表 11 を参照してください。
3. 選択するインストール オプションを確認する。表 12 を参照してください。
4. ハードウェア設定ディスクでハードウェアを設定する。P.9 の「ハードウェアの設定」を参照してください。
5. P.21 の「最初のノードでの新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール」
6. P.36 の「アップグレード後の作業の実行」にある適切な作業を実行する。

インストール ウィザード内のナビゲーション

インストール ウィザード内のナビゲーション方法については、表 11 を参照してください。

表 11 インストール ウィザードのナビゲーション

実行する処理	押すキー
次のフィールドに移動。	Tab
前のフィールドに移動。	Alt+Tab
オプションを選択。	Space
リストを上または下にスクロール。	↑または↓
前のウィンドウに移動。	Space キーを押してから Back を選択（使用可能な場合）
ウィンドウのヘルプ情報を表示。	Space キーを押してから Help を選択（使用可能な場合）

インストール オプションの選択

プラットフォーム ソフトウェア インストールが開始した後、表 12 に示すオプションのどれかを選択するように要求されます。

表 12 インストール オプション

インストール オプション	説明
Basic Install	このオプションは基本的なインストールを表し、インポート データは使用しません。
Upgrade During Install	このオプションを使用すると、システムを設定する前に、プリインストール ソフトウェアを最新のサービス リリースでアップグレードできます。また、Upgrade During Install の後に Windows Upgrade を選択すると、インストール処理中に両方が実行されます。
	 <p>(注) このオプションを選択する前に、ソフトウェア イメージが DVD またはリモート サーバで使用可能になっている必要があります。</p>

表 12 インストールオプション (続き)

インストールオプション	説明
Windows Upgrade	<p>このオプションを使用すると、既存の Cisco CallManager サーバをアップグレードするときに DMA ツールが生成した tar ファイルをインポートできます。</p> <p> (注) このオプションを使用してサーバをアップグレードする場合は、DMA ツールで移行されたデータを含む tar ファイルをテープまたはリモート ドライブで用意する必要があります。</p>

最初のノードでの新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール

最初の Cisco CallManager ノードにオペレーティングシステムと Cisco CallManager アプリケーションをインストールする前に、次の手順を実行します。



注意

この手順を開始する前に、現在の Windows ベース バージョンの Cisco CallManager で、データをバックアップしてください。詳細については、お使いのバージョンの BARS の『Cisco IP Telephony Backup and Restore System Administration Guide』を参照してください。

手順

- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して、DVD からブートします。サーバのブートシーケンスが完了した後、Media Check ウィンドウが表示されます。



(注) 新しいサーバに Cisco CallManager がプリインストールされている場合は、DVD からインストールする必要はありません。P. 22 の「Skip を選択した場合」の手順に直接進みます。

- ステップ 2** Media Check に表示されるチェックサムが Cisco.com でリリースされているチェックサムと一致することを確認します。

メディアチェックが完了すると、Media Check Result ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** Media Check Result に Pass と表示された場合は、OK を選択してインストールを続行します。

Media Check でメディアの障害が検出された場合は、別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。

- まず、インストールプロセスは、ドライバが正しいことを確認します。次の警告が表示されることがあります。

Drivers not found, do you want to install manually?

Yes を選択して、インストールを続行します。

- 次に、ハードウェア プラットフォームがサポート対象かどうかを確認します。サーバが正しいハードウェア要件を満たしていない場合、インストールプロセスは致命的なエラーで失敗します。この失敗が間違いであると考えられる場合は、エラーを収集して、シスコのサポートに報告してください。
- 次に、RAID 設定と BIOS 設定を確認します。インストール プロセスがハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するように要求するプロンプトが表示されます。

ハードウェア チェックが完了した後、**Overwrite Hard Drive** ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 **Overwrite Hard Drive** ウィンドウには、ハードディスク ドライブにある現在のソフトウェア バージョン（存在する場合）と、DVD のバージョンが表示されます。インストールを続行するには **Yes** を選択します。取り消すには **No** を選択します。



注意

Overwrite Hard Drive ウィンドウで **Yes** を選択すると、ハードディスク ドライブ上の既存のすべてのデータが上書きされ、破壊されます。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。後でプラットフォームを設定するには、**Skip** を選択します。

- ここでソフトウェアをインストールし、設定する場合は、**Proceed** を選択して、[P.23 の「Proceed を選択した場合」](#)に進みます。
- ここでソフトウェアをインストールし、後で設定する場合は、**Skip** を選択して、[P.22 の「Skip を選択した場合」](#)に進みます。

Skip を選択した場合

サーバに Cisco CallManager がプリインストールされている場合、または Platform Installation Wizard ウィンドウで **Skip** を選択した場合は、ここから開始します。

ステップ 6 システムを再起動した後、**Preexisting Installation Configuration** ウィンドウが表示されます。USB ドライブまたはフロッピー ディスクに設定情報がある場合は、ここで挿入します。



(注) Standalone Configuration Wizard で作成した情報がある場合は、設定されている値を適切なフィールドにシステムが自動的に入力します。Data Migration Assistant で作成したファイルがある場合は、『Cisco IP Telephony Data Migration Assistant 2.0 User Guide』を参照してください。

ステップ 7 **OK** を選択して続行します。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 **Proceed** を選択して、インストールを続行します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。[P.23 の「Proceed を選択した場合」](#)に進みます。

Proceed を選択した場合

ステップ 9 Product Installation Configuration ウィンドウが表示されたら、実行するインストールのタイプを選択します。インストール オプションの詳細については、表 12 を参照してください。

- DVD のソフトウェア バージョン、またはプリインストールされているソフトウェアで Windows Upgrade インストールを実行する場合は、**Windows Upgrade** を選択し、P.26 の「Windows Upgrade」に進みます。
- インストール中にソフトウェアの新しいサービス リリースにアップグレードする場合は、**Upgrade During Install** を選択し、P.23 の「Upgrade During Install」に進みます。



(注) 基本インストール (Windows データをインポートしないでアプリケーションをインストール) を実行するには、『Cisco CallManager Release 5.0(1) インストールガイド』を参照してください。

Upgrade During Install

Upgrade During Install を選択した場合、インストール ウィザードは、まず DVD のソフトウェア バージョンをインストールし、システムを再起動します。次に、特定のネットワーク設定パラメータ値とアップグレード ファイルの場所を入力するように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 10 システムを再起動した後、Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。**Proceed** を選択して、インストールを続行します。

Platform Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 **Upgrade During Install** を選択し、**OK** を選択します。

Install Upgrade Retrieval Mechanism Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 アップグレード ファイルを取得するアップグレード取得メカニズムを選択します。

- **SFTP** : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.24 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **FTP** : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.24 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **LOCAL** : ローカル CD または DVD からアップグレード ファイルを取得します。P.23 の「ローカル ディスクからのアップグレード」に進みます。

ローカル ディスクからのアップグレード

ローカル ドライブからアップグレードする前に、適切なパッチ ファイルを Cisco.com からダウンロードし、ファイルを CD または DVD にコピーする必要があります。ほとんどの場合、パッチ ファイルのサイズが大きいため、DVD にコピーする必要があります。

パッチファイル名は次の形式です。

```
cisco-ipt-k9-patchX.X.X.X-X.tar.gz
```

ここで、X.X.X.X-X はリリースおよびビルド番号を表します。



(注) インストール前にパッチ ファイルを `untar` または `unzip` しないでください。有効なファイルであると認識されなくなります。

ステップ 13 Local Patch Configuration ウィンドウが表示されたら、必要に応じてパッチ ディレクトリとパッチ名を入力し、**OK** を選択します。



(注) パッチが CD または DVD のルート ディレクトリ以外に保管されている場合だけ、パッチ ディレクトリを入力する必要があります。

Install Upgrade Patch Selection Validation ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 ウィンドウに、CD または DVD で使用可能なパッチ ファイルが表示されます。**Continue** を選択して、このパッチでシステムをアップデートします。

リモート サーバからのアップグレード

リモート サーバへの FTP または SFTP 接続でアップグレードする場合は、まず、ネットワーク設定を構成する必要があります。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 インストール プロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 ネットワーク設定では、ノードとゲートウェイの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。システムが再起動し、ネットワークの接続を確認します。P.25 の「リモート パッチの取得」に進みます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

システムがネットワークを設定し、接続を確認した後、Remote Patch Configuration ウィンドウが表示されます。

リモートパッチの取得

ステップ 20 リモート ファイル サーバの場所とログイン情報を入力します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。ネットワークを再開した後、システムはリモートサーバに接続し、使用可能なアップグレードパッチのリストを取得します。

Install Upgrade Patch Selection ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 インストールするアップグレード パッチを選択します。システムは、パッチをダウンロードし、unpack し、インストールしてから、アップグレードされたソフトウェアバージョンを実行するシステムを再起動します。

システムが再起動した後、Preexisting Configuration Information ウィンドウが表示されます。

既存の設定情報の使用

ステップ 22 フロッピー ディスクまたは USB キーに保管されている既存の設定情報がある場合、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、**Continue** を選択します。インストールウィザードは、インストールプロセス中に設定情報を読み取ります。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。



(注) 既存の設定情報には、Standalone Configuration Wizard で作成されたファイルが含まれます。Configuration Wizard の使用方法については、[P.18](#) の「[Standalone Configuration Wizard の使用](#)」を参照してください。

ステップ 23 **Proceed** を選択して、Platform Installation Wizard を続行します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 24 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 25 **Windows Upgrade** を選択して、[P.26](#) の「[Windows Upgrade](#)」に進みます。

Windows Upgrade

Windows Upgrade を選択すると、インストール ウィザードは、Data Migration Assistant (DMA) ツールで作成した既存の Windows 設定情報の場所を入力するように要求するプロンプトを表示します。DMA ツールの詳細については、『Cisco IP Telephony Data Migration Assistant 2.0 User Guide』を参照してください。

ステップ 26 Windows Upgrade を選択し、**OK** を選択します。

Timezone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 27 サーバの適切な時間帯を選択し、**OK** を選択します。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 28 インストール プロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 29 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 30 ネットワーク設定では、ノードとゲートウェイの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。システムが再起動し、ネットワークの接続を確認します。Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 31 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 32 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 33 表 8 を参照して、管理者ログインとパスワードを入力します。

Certificate Signing Request Information ウィンドウが表示されます。

ステップ 34 表 8 を参照して証明書の署名要求情報を入力し、**OK** を選択します。

First Node Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 35 このノードは、クラスタの最初のノードとして設定する必要があります。**Yes** を選択して続行します。

Network Time Protocol Client Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) 最初のノードのシステム時間を正確にするために、外部 NTP サーバを使用することを推奨します。クラスタの後続ノードは、最初のノードから時間を取得します。

ステップ 36 外部 NTP を設定するか、手動でシステム時間を設定するか、選択します。

- 外部 NTP サーバを設定するには、**Yes** を選択し、少なくとも 1 つの NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバプール名を入力します。最大 5 つの NTP サーバを設定でき、3 つ以上を使用することを推奨します。**Proceed** を選択して、インストールを続行します。



(注) Test ボタンが表示されている場合、**Test** を選択して、入力した NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェアクロックの時間を設定します。

- 手動でシステム時間を設定するには、**No** を選択し、適切な日付と時刻を入力し、ハードウェアクロックを設定します。**OK** を選択して、インストールを続行します。

Database Access Security Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 37 表 8 を参照して、Database Access Security パスワードを入力します。



(注) Database Access Security パスワードは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。システムは、このパスワードを使用して、ノード間の通信を認証します。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

SMTP Host Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 38 SMTP サーバを設定する場合は、**Yes** を選択し、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように、SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、SMTP サーバは、プラットフォーム GUI またはコマンドラインインターフェイスを使用して、後で設定できます。

DMA Retrieval Mechanism Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 39 DMA ファイルを取得するメカニズムを選択します。

- － **SFTP** : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバから DMA ファイルを取得します。
- － **FTP** : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバから DMA ファイルを取得します。
- － **TAPE** : ローカルに接続されているテープ ドライブから DMA ファイルを取得します。

OK を選択して、インストール ウィザードを続行します。



(注)

SFTP または FTP を選択した場合、DMA Backup Configuration Screen が表示され、ここで DMA ファイルの場所とリモート サーバのログイン情報を入力する必要があります。TAPE を選択した場合、システムはローカルに接続されているテープから DMA ファイルを読み取ります。

ステップ 40 SFTP または FTP を選択した場合、DMA Backup Configuration 情報を入力し、**OK** を選択します。パラメータ定義については、表 9 を参照してください。

Platform Configuration Confirmation ウィンドウが表示されます。

ステップ 41 **OK** を選択してインストールを続行するか、**Back** を選択してプラットフォーム設定を変更します。

OK を選択すると、Application User Password Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 42 表 8 を参照して Application User Password を入力し、もう一度入力してパスワードを確認します。

ステップ 43 **OK** を選択します。

End User Password/PIN Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 44 End User Password と PIN を入力し、**OK** を選択します。

システムがソフトウェアをインストールし、ネットワークを再開し、指定された DMA ファイルを読み取ります。

DMA Retrieval Mechanism Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 45 **OK** を選択して続行するか、**Back** を選択して別の DMA ファイルを選択します。

OK を選択すると、Platform Configuration Confirmation ウィンドウが表示されます。

ステップ 46 **OK** を選択して続行します。

ステップ 47 インストール プロセスが完了すると、Administrator アカウントとパスワードでログインするように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 48 P.36 の「アップグレード後の作業の実行」に示すアップグレード後の作業を完了します。

クラスタの後続ノードのアップグレード

クラスタの後続ノードをアップグレードするには、まず、新しいオペレーティング システムと新しい Cisco CallManager アプリケーションを最初のノードにインストールし、最初のノードで Cisco CallManager Administration を使用して、後続ノードを設定する必要があります。

後続ノードでは、ディスク上のソフトウェア バージョンをインストールすることも、より新しい サービス リリースをリモート サーバから取得することもできます。後続ノードは、インストールの終了時に、最初のノードからデータを取得します。

クラスタの後続ノードを Cisco CallManager 4.x から Cisco CallManager 5.0(1) にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. 最初のノードを Cisco CallManager 4.0 のパブリッシュャから Cisco CallManager 5.0 にアップグレードします。
2. 最初のノードで Cisco CallManager Administration を使用し、後続ノードを設定します。
3. 後続ノードが最初のノードにネットワーク接続できることを確認します。
4. DVD から新しいオペレーティング システムと Cisco CallManager アプリケーションをインストールします。
5. 必要な場合、ソフトウェアをより新しいサービス リリースにアップグレードします。
6. プラットフォームと Cisco CallManager を設定します。



(注)

クラスタの後続ノードをアップグレードする前に、最初のノードでデータの移行を正常に完了させる必要があります。

後続ノードでの新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール

後続ノードにオペレーティング システムと Cisco CallManager アプリケーションをインストールする前に、次の手順を実行します。



注意

この手順を開始する前に、Cisco CallManager 4.0 または 4.1 パブリッシュャ サーバをアップグレードし、Cisco CallManager 5.0 の最初のノードで後続ノードを設定し、最初のノードにネットワーク接続できるようにしておく必要があります。これらの条件が満たされていない場合、インストールが失敗することがあります。

- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して、DVD からブートします。サーバのブート シーケンスが完了した後、Media Check ウィンドウが表示されます。



(注)

新しいサーバに Cisco CallManager がプリインストールされている場合は、DVD からインストールする必要はありません。P. 22 の「Skip を選択した場合」の手順に直接進みます。

- ステップ 2** Media Check に表示されるチェックサムが Cisco.com でリリースされているチェックサムと一致することを確認します。

メディア チェックが完了すると、Media Check Result ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Media Check Result に Pass と表示された場合は、**OK** を選択してインストールを続行します。

Media Check でメディアの障害が検出された場合は、別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。



(注) インストールプロセスは、サーバでさまざまなハードウェア チェックを実行し、RAID 設定と BIOS 設定を確認します。インストールプロセスがハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するように要求するプロンプトが表示されます。

Overwrite Hard Drive ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 **Overwrite Hard Drive** ウィンドウには、ハードディスク ドライブにある現在のソフトウェア バージョン（存在する場合）と、DVD のバージョンが表示されます。インストールを続行するには **Yes** を選択します。取り消すには **No** を選択します。



注意

Overwrite Hard Drive ウィンドウで **Yes** を選択すると、ハードディスク ドライブ上の既存のすべてのデータが上書きされ、破壊されます。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。後でプラットフォームを設定するには、**Skip** を選択します。

- ここでソフトウェアをインストールし、設定する場合は、**Proceed** を選択して、[P.23 の「Proceed を選択した場合」](#)に進みます。
- ここでソフトウェアをインストールし、後で設定する場合は、**Skip** を選択して、[P.22 の「Skip を選択した場合」](#)に進みます。

Skip を選択した場合

サーバに Cisco CallManager がプリインストールされている場合、または Platform Installation Wizard ウィンドウで **Skip** を選択した場合は、ここから開始します。

ステップ 6 システムを再起動した後、Preexisting Installation Configuration ウィンドウが表示されます。USB ドライブまたはフロッピー ディスクに設定情報がある場合は、ここで挿入します。



(注) 新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで **Install** を選択します。



(注) Standalone Configuration Wizard で作成した情報がある場合は、設定されている値を適切なフィールドにシステムが自動的に入力します。

ステップ 7 **OK** を選択して続行します。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 **Proceed** を選択して、インストールを続行します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。P.23 の「**Proceed** を選択した場合」に進みます。

Proceed を選択した場合

ステップ 9 Product Installation Configuration ウィンドウが表示されたら、実行するインストールのタイプを選択します。インストール オプションの詳細については、表 12 を参照してください。

- － DVD のソフトウェア バージョンをインストールする場合、またはプリインストールされているソフトウェアを設定する場合は、**Basic Install** を選択し、P.34 の「**基本インストール**」に進みます。
- － インストール中にソフトウェアの新しいサービス リリースにアップグレードする場合は、**Upgrade During Install** を選択し、P.31 の「**Upgrade During Install**」に進みます。

Upgrade During Install

Upgrade During Install を選択した場合、インストール ウィザードは、まず DVD のソフトウェア バージョンをインストールし、システムを再起動します。次に、特定のネットワーク設定パラメータ値とアップグレード ファイルの場所を入力するように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 10 システムを再起動した後、Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。**Proceed** を選択して、インストールを続行します。



(注) 新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで **Install** を選択します。

Platform Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 **Upgrade During Install** を選択し、**OK** を選択します。

Install Upgrade Retrieval Mechanism Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 アップグレード ファイルを取得するアップグレード取得メカニズムを選択します。

- － **SFTP** : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.24 の「**リモート サーバからのアップグレード**」に進みます。
- － **FTP** : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.24 の「**リモート サーバからのアップグレード**」に進みます。
- － **LOCAL** : ローカル CD または DVD からアップグレード ファイルを取得します。P.23 の「**ローカル ディスクからのアップグレード**」に進みます。

ローカル ディスクからのアップグレード

ローカル ドライブからアップグレードする前に、適切なパッチ ファイルを Cisco.com からダウンロードし、ファイルを CD または DVD にコピーする必要があります。ほとんどの場合、パッチ ファイルのサイズが大きいため、DVD にコピーする必要があります。

パッチファイル名は次の形式です。

```
cisco-ipt-k9-patchX.X.X-X.tar.gz
```

ここで、X.X.X.X-X はリリースおよびビルド番号を表します。



(注) インストール前にパッチ ファイルを **untar** または **unzip** しないでください。有効なアップグレード ファイルであると認識されなくなります。

ステップ 13 Local Patch Configuration ウィンドウが表示されたら、必要に応じてパッチ ディレクトリとパッチ名を入力し、**OK** を選択します。



(注) パッチが CD または DVD のルート ディレクトリ以外に保管されている場合だけ、パッチ ディレクトリを入力する必要があります。

Install Upgrade Patch Selection Validation ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 ウィンドウに、CD または DVD で使用可能なパッチ ファイルが表示されます。**Continue** を選択して、このパッチでシステムをアップデートします。

リモート サーバからのアップグレード

リモート サーバへの FTP または SFTP 接続でアップグレードする場合は、まず、ネットワーク設定を構成する必要があります。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 インストール プロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 ネットワーク設定では、ノードとゲートウェイの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。システムが再起動し、ネットワークの接続を確認します。P.25 の「リモート パッチの取得」に進みます。

- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

システムがネットワークを設定し、接続を確認した後、Remote Patch Configuration ウィンドウが表示されます。

リモートパッチの取得

ステップ 20 リモート ファイル サーバの場所とログイン情報を入力します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。ネットワークを再開した後、システムはリモートサーバに接続し、使用可能なアップグレードパッチのリストを取得します。

Install Upgrade Patch Selection ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 インストールするアップグレード パッチを選択します。システムは、パッチをダウンロードし、unpack し、インストールしてから、アップグレードされたソフトウェア バージョンを実行するシステムを再起動します。

システムが再起動した後、Preexisting Configuration Information ウィンドウが表示されます。

既存の設定情報の使用

ステップ 22 フロッピー ディスクまたは USB キーに保管されている既存の設定情報がある場合、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、**Continue** を選択します。インストール ウィザードは、インストールプロセス中に設定情報を読み取ります。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。



(注) 既存の設定情報には、Configuration Wizard で作成されたファイルが含まれます。Configuration Wizard の使用方法については、[P.18 の「Standalone Configuration Wizard の使用」](#) を参照してください。

ステップ 23 **Proceed** を選択して、Platform Installation Wizard を続行します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 24 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 25 **Basic Install** を選択して、[P.34 の「基本インストール」](#)に進みます。

基本インストール

ステップ 26 Timezone Configuration が表示されたら、サーバの適切な時間帯を選択し、**OK** を選択します。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 27 インストール プロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 28 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 29 ネットワーク設定では、ノードの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP が設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。ネットワークが再開し、Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 30 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 31 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 9](#) を参照してください。

新しい設定情報でネットワークが再開し、Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されず。

ステップ 32 [表 8](#) を参照して、Administrator ログインとパスワードを入力します。



(注) Administrator ログインは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。Administrator ログインは、Cisco IP Telephony Platform Administration、コマンドライン インターフェイス、および Cisco IP Telephony Disaster Recovery System へのログインに必要です。

Certificate Signing Request Information ウィンドウが表示されます。

ステップ 33 表 8 を参照して証明書の署名要求情報を入力し、**OK** を選択します。

First Node Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 34 **No** を選択して、このサーバをクラスタの後続ノードとして設定します。

First Node Access Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 35 表 8 を参照して、First Node Access Configuration 情報を入力します。

SMTP Host Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 36 SMTP サーバを設定する場合は、**Yes** を選択し、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように、SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、SMTP サーバは、プラットフォーム GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で設定できます。

Platform Configuration Confirmation ウィンドウが表示されます。

ステップ 37 **OK** を選択してソフトウェアのインストールを開始します。または、**Back** を選択して設定を変更します。

ステップ 38 インストールプロセスが完了すると、Administrator アカウントとパスワードでログインするように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 39 P.36 の「アップグレード後の作業の実行」に示すアップグレード後の作業を完了します。

アップグレード後の作業の実行

Cisco CallManager のアップグレードが完了した後、次の表に従って、適切なすべての作業を実行する必要があります。

表 13 アップグレード後の作業

アップグレード後の作業	注意事項
<p>適切なすべての Cisco CallManager サービスが開始したことを確認する。</p> <p>内部コールが機能することを確認する。</p> <p>ゲートウェイを通じてコールの発信と着信が可能であることを確認する。</p>	<p>次の資料を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Cisco CallManager Serviceability</i> アドミニストレーションガイド • <i>Cisco CallManager Serviceability</i> システムガイド <p>P.38 の「Cisco CallManager サービスの確認」を参照してください。</p>
<p>バックアップ設定を構成します。</p> <p>Cisco CallManager データのバックアップは、毎日必ず実行してください。</p>	<p>『Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Guide』を参照してください。</p>
<p>ロケール English_United_States が、自動的にサーバにインストールされる。必要に応じて、新しいロケールをサーバに追加できる。</p>	<p>『Cisco IP Telephony Platform Administration Guide』を参照してください。</p>
<p>Cisco IP Telephony ネットワークに、認証と暗号化を実装することを推奨します。</p>	<p>『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
<p>Microsoft Active Directory または Netscape Directory を使用している場合、LDAP サーバとの同期を有効にできる。</p>	<p>ディレクトリの詳細については『Cisco CallManager システムガイド』を参照してください。</p> <p>同期の有効化の詳細については『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
<p>サブスライバサーバをクラスタの後続の Cisco CallManager ノードとしてアップグレードする。</p>	<p>最初のノードと同じセキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>P.29 の「クラスタの後続ノードのアップグレード」を参照してください。</p>
<p>クラスタの後続の Cisco CallManager ノードをインストールし、設定する。</p>	<p>サブスライバサーバは、データベースでの後続ノードとして自動的に定義されます。最初のノードに使用したのと同じセキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>P.29 の「クラスタの後続ノードのアップグレード」を参照してください。</p>

表 13 アップグレード後の作業（続き）

アップグレード後の作業	注意事項
<p>必要な場合、追加の後続ノードをクラスタに追加できる。</p>	<p>追加の後続ノードをクラスタに追加するには、次の作業を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後続の Cisco CallManager ノードのホスト名または IP アドレスを最初の Cisco CallManager サーバに追加して、クラスタのすべての後続ノードを定義します。Cisco CallManager Administration から、System>Server を選択します。詳細については『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。 2. 新しいアプリケーションをインストールし、クラスタの後続の Cisco CallManager ノードを設定します。P.29 の「クラスタの後続ノードのアップグレード」を参照してください。 <p>最初のノードに使用したものと同一セキュリティパスワードを入力します。</p>
<p>カスタマー背景イメージ、カスタム TFTP ファイル、カスタム MoH ファイル、およびカスタマー呼び出し音を再インストールする。</p>	<p>これらのファイルをアップロードするには、Cisco IP Telephony Platform Administration にログインし、Software Upgrades>Upload TFTP Server File メニューを選択します。</p> <p>詳細については『Cisco IP Telephony Platform Administration Guide』を参照してください。</p>
<p>Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool、Cisco CallManager Attendant Console など、必要なクライアントサイドプラグインをインストールする。</p>	<p>Cisco CallManager Administration から、Application>Plugins を選択します。</p> <p>詳細については『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
<p>アップグレード後に、呼び出し音と背景イメージを再設定する必要があることをエンドユーザに通知する。</p>	<p>これらの設定は移行されません。</p>

Cisco CallManager サービスの確認

Cisco CallManager Administration または Cisco CallManager Serviceability にアクセスするには、Cisco CallManager サーバにネットワーク アクセスできる PC から Web ブラウザを使用する必要があります。

サービスをアクティブにする手順およびサービスの推奨事項については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』および『Cisco CallManager Serviceability システムガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager サーバにネットワーク アクセスできる PC で、Web ブラウザを開きます。

ステップ 2 次の URL を入力します。

http://ccm_server:8080/ccmadmin

ここで、*ccm_server* には、Cisco CallManager サーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

ステップ 3 Cisco CallManager の Administrator ユーザ名およびパスワードを入力します。

ステップ 4 Navigation メニューから、Cisco CallManager Serviceability を選択し、**Go** をクリックします。

ステップ 5 **Tools>Service Activation** を選択します。

ステップ 6 移行されたすべてのサービスが実行中であることを確認します。

Cisco CallManager 5.0 にアップグレードした後のアップグレードソフトウェアのインストール

このバージョンの Cisco CallManager では、システムの運用を続けながら、サーバにアップグレードソフトウェアをインストールできます。システムには、アクティブでブート可能なパーティションと、非アクティブでブート可能なパーティションの 2 つのパーティションがあります。システムは、アクティブパーティションとしてマークされているパーティションでブートし、全体の運用をします。

アップグレードソフトウェアをインストールするときは、非アクティブパーティションにソフトウェアをインストールします。システムは、ソフトウェアのインストール中も、通常どおり機能します。準備が整ったら、非アクティブパーティションをアクティブにして、新しいアップグレードソフトウェアでシステムをリブートします。現在のアクティブパーティションは、システムが再起動したときに、非アクティブパーティションとして識別されます。現在のソフトウェアは、次にアップグレードするまで、非アクティブパーティションに残ります。その他のノードでアクティブにする前に、最初のノードで新しいソフトウェアをアクティブにする必要があります。



(注)

データベースへの変更は、アクティブパーティションでだけです。非アクティブパーティションのデータベースは更新されません。アップグレード後にデータベースを変更した場合、パーティションを切り替えた後で、同じ変更を繰り返す必要があります。

システムのアップグレード

パッチまたはアップグレードバージョンは、Cisco CallManager サーバがアクセスできる DVD (ローカルソース) またはコンピュータ (リモートソース) からインストールできます。ソフトウェアパッチは、新しいソフトウェアを実際にアクティブにする前に、各ノードの非アクティブパーティションに個別にインストールできます。準備が整ったら、その他のノードでアクティブにする前に、最初のノードで新しいソフトウェアをアクティブにする必要があります。



(注)

ソフトウェアパッチは、新しいソフトウェアを実際にアクティブにする前に、各ノードの非アクティブパーティションに個別にインストールできます。準備が整ったら、その他のノードでアクティブにする前に、最初のノードで新しいソフトウェアをアクティブにする必要があります。

ローカルソースから

ローカルディスクドライブにある CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレードプロセスを起動できます。



(注)

ソフトウェアアップグレードプロセスを起動する前に、システムデータをバックアップしてください。詳細については『Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Administration Guide』を参照してください。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 適切なアップグレードファイルを Cisco.com からダウンロードします。



(注) ファイルは unzip または untar しないでください。unzip または untar すると、システムがアップグレードファイルを読み取れなくなります。

ステップ 2 アップグレードファイルを書き込み可能な CD または DVD にコピーします。

ステップ 3 アップグレードするローカルサーバのディスクドライブに、新しい CD または DVD を挿入します。



(注) サイズが大きいため、アップグレードファイルを CD に書き込めないことがあります。その場合は、DVD が必要です。

ステップ 4 次の URL を入力して、Cisco IP Telephony Platform Administration を直接開きます。

http://server-name/iptplatform

ここで、*server-name* は Cisco CallManager サーバのホスト名または IP アドレスです。

ステップ 5 Administrator ユーザ名およびパスワードを入力します。

ステップ 6 **Software Upgrades>Install/Upgrade** を選択します。

ステップ 7 ソフトウェアの場所として、**DVD/CD** を選択します。

ステップ 8 パッチファイルを CD または DVD のサブディレクトリに書き込んだ場合は、Directory フィールドにパスを入力します。

ステップ 9 **Next** をクリックして、アップグレードプロセスを続行します。

ステップ 10 インストールするアップグレードバージョンを選択し、**Next** をクリックします。

ステップ 11 次のウィンドウでダウンロードの進捗を監視します。転送中のファイル名とメガバイト数が表示されます。

ダウンロードが完了すると、Checksum ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 チェックサム値が、Cisco.com で表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムと同じであることを確認します。



注意

アップグレードファイルの真正性と整合性を確認するために、2つのチェックサム値が一致することを確認する必要があります。チェックサム値が一致しない場合は、Cisco.com から新しいバージョンのファイルをダウンロードし、アップグレードを再度試行してください。

ステップ 13 チェックサムが一致することを確認した後、**Next** をクリックして、ソフトウェア アップグレードを続行します。

Warning ウィンドウが表示され、現在のソフトウェア バージョンとアップグレード ソフトウェア バージョンが表示されます。

ステップ 14 **Next** をクリックして、ソフトウェア アップグレードを続行します。

Post Installation Options ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 アップグレード ソフトウェアをインストールした後、アップグレードしたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- アップグレードをインストールし、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、**Reboot to upgraded partition** を選択します。
- アップグレードをインストールし、アップグレードされたパーティションを後で手動でリブートするには、**Do not reboot after upgrade** を選択します。

ステップ 16 **Upgrade** をクリックします。

Upgrade Status ウィンドウが表示され、Upgrade ログが表示されます。

ステップ 17 インストールが完了したら、**Finish** をクリックします。

ステップ 18 **Restart>Switch Versions** を選択して、システムを再起動し、アップグレードをアクティブにします。

Switch Software Version ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 **Switch Versions** をクリックして、ソフトウェア バージョンを切り替え、システムを再起動します。

Switch Software Version ウィンドウが表示されます。

システムの再起動を確認すると、システムはアップグレードされたソフトウェアの実行を再開します。

リモート ソースから

ネットワーク ドライブまたはリモート サーバからソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。



(注)

ソフトウェア アップグレード プロセスを起動する前に、システム データをバックアップしてください。詳細については『Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Administration Guide』を参照してください。

手順

- ステップ 1** **Software Upgrades>Install** を選択します。
- ステップ 2** Software Location Source で **Remote File System** を選択します。
- ステップ 3** 必要に応じて、ソフトウェアアップグレードのディレクトリ名を入力します。
- ステップ 4** 次の表の説明に従い、必要なアップグレード情報を入力します。

フィールド	説明
Remote Server	ソフトウェアをダウンロードする元のリモートサーバのホスト名または IP アドレス
Remote User	リモートサーバで設定されているユーザの名前
Remote Password	リモートサーバで、このユーザに設定されているパスワード
Download Protocol	sftp または ftp を選択



(注) リモートサーバ設定フィールドを有効にするには、**Remote File System** を選択する必要があります。

- ステップ 5** **Next** をクリックします。
- システムが、使用可能なアップグレードを確認します。
- ステップ 6** インストールするアップグレードまたはオプションを選択し、**Next** をクリックします。
- ステップ 7** 次のウィンドウでダウンロードの進捗を監視します。転送中のファイル名とメガバイト数が表示されます。
- ダウンロードが完了すると、Checksum ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** チェックサム値が、Cisco.com で表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムと同じであることを確認します。



注意

アップグレードファイルの真正性と整合性を確認するために、2つのチェックサム値が一致することを確認する必要があります。チェックサム値が一致しない場合は、Cisco.com から新しいバージョンのファイルをダウンロードし、アップグレードを再度試行してください。

- ステップ 9** チェックサムが一致することを確認した後、**Next** をクリックして、ソフトウェアアップグレードを続行します。

Warning ウィンドウが表示され、現在のソフトウェアバージョンとアップグレードソフトウェアバージョンが表示されます。

ステップ 10 **Next** をクリックして、ソフトウェア アップグレードを続行します。

Post Installation Options ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードしたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- － アップグレードをインストールし、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、**Reboot to upgraded partition** を選択します。
- － アップグレードをインストールし、アップグレードされたパーティションを後で手動でリブートするには、**Do not reboot after upgrade** を選択します。

ステップ 12 **Upgrade** をクリックします。

Upgrade Status ウィンドウが表示され、Upgrade ログが表示されます。

ステップ 13 インストールが完了したら、**Finish** をクリックします。

ステップ 14 **Restart>Switch Versions** を選択して、システムを再起動し、アップグレードをアクティブにします。

Switch Software Version ウィンドウが表示されます。

システムの再起動を確認すると、システムはアップグレードされたソフトウェアの実行を再開します。

以前のバージョンへの復元

アップグレードが不安定である、またはその他の理由で、アップグレード前のソフトウェアバージョンに復元したい場合は、システムを再起動して、非アクティブパーティションのソフトウェアバージョンに切り替えることができます。

手順

ステップ 1 次の URL を入力して、Cisco IP Telephony Platform Administration を直接開きます。

`http://server-name/iptplatform`

ここで、*server-name* は Cisco CallManager サーバのホスト名または IP アドレスです。

ステップ 2 Administrator ユーザ名およびパスワードを入力します。

ステップ 3 **Restart>Switch Versions** を選択します。

Switch Software Version ウィンドウが表示されます。

システムの再起動を確認すると、システムはアップグレードされたソフトウェアの実行を再開します。

Disaster Recovery ディスクの使用

システムに緊急事態が発生した場合は、Disaster Recovery ディスクを使用して、Cisco CallManager の Windows ベースのバージョンに復元したり、非アクティブ パーティションで強制的に再起動したりすることができます。

Cisco CallManager の以前のバージョンへの復元

Cisco CallManager 4.0 または 4.1 から Cisco CallManager 5.0 へのアップグレードに失敗した場合は、Disaster Recovery Disc を使用して、Cisco CallManager の Windows ベースのバージョンに復元できます。



注意

Cisco CallManager の以前のバージョンに復元する場合、Cisco CallManager 5.0 で変更した設定はすべて失われます。

Disaster Recovery Disk を使用するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Disaster Recovery ディスクを挿入し、CD からブートするようにシステムを再起動します。サーバのブート シーケンスが完了した後、Disaster Recovery メニューが表示されます。
- ステップ 2** Windows プリインストール設定の場合、**W** を入力します。
- ステップ 3** **Yes** を入力して続行します。



注意

続行すると、現在ハードディスク ドライブにあるすべてのデータが失われます。

Disaster Recovery ディスクは、Cisco CallManager の Windows ベースのバージョンを再インストールできるように、ハードディスク ドライブをフォーマットします。

- ステップ 4** Cisco CallManager の Windows ベースのバージョンのインストール ガイドの指示に従い、まずパブリッシュに Cisco CallManager をインストールし、次にサブスクリバ ノードにインストールします。
- ステップ 5** Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) を使用して、以前バックアップしたデータをサーバに復元します。詳細については、お使いのバージョンの BARS の『Cisco IP Telephony Backup and Restore System Administration Guide』を参照してください。

パーティションの切り替え

現在のパーティションでシステムを起動できない場合は、Disaster Recovery ディスクを使用して、非アクティブ パーティションに強制的に切り替え、このパーティションのソフトウェア バージョンの実行を開始します。



注意

非アクティブな部分で強制的に再起動した場合、現在のパーティションにアップグレード後に変更した設定はすべて失われます。

強制的にパーティションを切り替えて再起動するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** Disaster Recovery ディスクを挿入し、CD からブートするようにシステムを再起動します。サーバのブート シーケンスが完了した後、Disaster Recovery メニューが表示されます。
- ステップ 2** S を入力して、ソフトウェアを実行しているサーバを現在の非アクティブ パーティションで再起動します。
- ステップ 3** Enter キーを押します。

サーバが再起動します。

ログ ファイルの検査

インストールで問題が発生した場合は、コマンドライン インターフェイスで次のコマンドを入力し、インストール ログ ファイルを取得して検査できます。

インストール ログ ファイルのリストをコマンドラインから取得するには、次のように入力します。

```
CLI>file list install
```

ログ ファイルをコマンドラインから表示するには、次のように入力します。

```
CLI>file view install log_file
```

ここで、*log_file* はログ ファイル名です。

Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、ログを表示することもできます。Cisco CallManager RTMT の使用およびインストールの詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド Release 5.0(1)』を参照してください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

Product Documentation DVD（英語版）

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Product Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Product Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスし、技術情報を HTML で参照できます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ（Cisco Direct Customers）の場合、次の URL の Cisco Marketplace から Product Documentation DVD（Product Number DOC-DOCDVD=）を発注できます。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法（英語版）

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国（本製品を使用する国々）での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。この製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メール（英語のみ）を送信してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル（英文のみ）を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合：security-alert@cisco.com（英語のみ）
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないで見なされます。
- 緊急でない場合：psirt@cisco.com（英語のみ）

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302（英語のみ）
- 1 408 525-6532（英語のみ）



シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピーアンドペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3 : ネットワークに軽微な障害が発生した、S4 : 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1 : ネットワークがダウンした、S2 : ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1) : ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2) : 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3) : ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4) : シスコ製品の機能、インストラクション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。
<http://www.ciscopress.com>
- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/packet>
日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>
- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>
デジタル版には、次の URL からアクセスできます。
<http://cisoiq.texterity.com/cisoiq/sample/>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。
<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Copyright © 2006, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501